



あらかわ区報 Jr.



ArakawaKuhō Junior

平成30年3/14

発行 荒川区●23,000部発行
〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 ☎(3802)3111

ぼうさいがぼうそくぞくねんめ
防災部発足3年目!

私たちにできる**防災**

荒川区の全ての区立中学校に防災部が発足して3年目。地域の状況に応じた防災・避難活動に取り組んでいます。今号では、ゆいの森芝生広場で、災害時に役立つ「かまどベンチ」や「マンホールトイレ」の組み立て、毛布を使った簡易担架づくりを、防災部のジュニア記者が体験しました。

問合せ 防災課 ☎内線418 / 教育委員会事務局指導室 ☎内線3388



はかせ

みんなは日頃から防災に取り組んだり、災害が起こった時の避難について家族や友達と話し合ったりしておるかな？ 大地震などの自然災害はいつ起こるかわからないので、普段から防災への意識をしっかりと持つことがとても大切なんじゃ。そこで、日頃から防災や救助などについて学び、地域の防災活動や災害時に活躍してもらおうと、平成27年度に荒川区の全ての区立中学校に防災部が創設されたんじゃ。今では多くの防災部員が「自分たちの町は自分たちで守る」という意識を持って、地域で防災活動に取り組んでおるぞ。地域の人にとっても防災部のみんなは、とても心強い存在になっておるんじゃ。



あらかわ区報 Jr. は荒川区ホームページでご覧になれます。
<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html>



次は5月に発行する予定です

防災部活動レポート

2月6日
荒川区中学生
防災対策会議

各中学校の防災部の代表が集まり、平成29年度荒川区中学生防災対策会議が開催されました。当日は、いのちを守る@プロジェクトJAPANの高員正芳さんを講師に迎え、震災発災時や避難時における状況でどのような行動をとるか考える防災シミュレーションゲームにグループで挑戦し、話し合いや発表を行いました。



高員さんの質問に積極的に手を挙げる防災部員たち

南千住野球場で「あらBOSAI 2018」が開催されました。当日は、全区立中学校の防災部が集まりました。防災体験プログラムの運営では、日頃の活動の成果を発揮することができました。

3月3日
あらBOSAI 2018

消防署の職員さんに見守られながらD級ポンプのエンジンのかけ方を披露



災害時の応急手当の方法を説明する防災部員

組み立ては任せて! 普段はベンチ 災害時はかまどに



平澤映人くん



▲防災普及指導員さんから最初にねじのはずし方など、かまどベンチの組み立て方の説明を聞きました



ベンチの座面を持ち上げる時に、思わず「うわっ、重い」と声が上がりました。二人で力を合わせてベンチの座面を外します。災害時は仲間同士の協力がとても重要です



かまど完成!!

▲指導を受けながらも、自分たちでかまどを組み立てることができました! 力仕事も大丈夫!



毛布を使って 簡易担架 づくりに挑戦

▲救急用の担架がない時は、身の回りのものを使って担架の代わりにします。今回は、毛布を巻いて持ち手にする簡易担架を体験しました



増田元哉くん

毛布の端をきつく巻くのが重要

安心して使える マンホールトイレ

▲組み立てた簡易トイレの上に全員で協力してテントを設置。「ボールの組み立てが難しかったけど、みんなで作業すれば大丈夫。コツをつかんだよ!」



「災害用トイレ」の文字が目印



これでパッチリ 安心だね

山崎日南太くん



▲原中学校防災部のジュニア記者と防災課の植村浩司さん

力仕事や難しい作業も チームワークでやり 今回、ジュニア記者を指導してくれたのは、防災課の植村浩司さんと防災普及指導員さんたちです。「けが防止のため、服のファスナーを上まであげて、手袋のベルトもしっかり締めましょう」。安全面の確認を行うと、ジュニア記者の気持ちも引き締まりました。最初は、かまどベンチの組み立てに挑戦。座面を脚部から外し、中にセットさ

れたかまど部分を組み立てます。力のいる仕事ですが、声を掛け合ってかまどが出来上がりました。「公園のベンチがかまどにもなるなんてびっくり。ここで体験したから、いざという時は組み立てを手伝えるね」と、頼もしいジュニア記者。次に体験したのは、マンホールトイレの設置です。テントのポールを組み立てて苦労しましたが、自分の作業が終わるとすぐに他の人を手伝うなど、チームワークで乗り切りました

このマンホールトイレは、防災井戸の水が流せません。臭いの心配がなく、快適に使うことが出来ます。体験を活かして 地域で活躍したい 救助活動の一つとして体験したのが簡易担架です。人を乗せた毛布の端をくるくると巻いて持ち手にして運びます。毛布の端を持ちやすいように巻きますが、「ゆるく巻くと、持ち上げられないよ」と注意され、もう一度しっかりと巻き直しました。

出来上がった担架で「1、2の3」と声を合わせて救助者を運び出しました。防災課の皆さんの指導のもと、防災設備の使い方や救助活動を体験したジュニア記者たち。「災害時はここで学んだことを活かして、避難所で活動したい」「トイレやベンチの新しい機能に驚いた。これからも勉強していきたい」と、防災への意欲を語ります。皆さん、防災についての知識を深め、災害時に正しく行動できるように心がけましょう。



災害時の活動を体験!

災害が起こった時に、自分の身を守り周囲の人の助けとなるためには、日頃から自分たちができる活動を確認しておくことが大切です。そこで原中学校防災部のジュニア記者が、ゆいの森芝生広場に設置された防災設備の使い方や救助活動を体験しました。

懐かしいあの日あの時 思い出写真館

No.42 起震車の初出動

昭和54年に町内会の防災活動で起震車が初出動した時の写真です。大勢の方が集まっている様子が確認できます。起震車は現在も、さまざまな防災活動の場に派遣され、多くの方が体験しています。



▲現在の起震車と形が大きく異なります

まだまだある! 区の防災の取り組みを紹介! します!

起震車体験
区の起震車は、最大震度7までの揺れを体験できます。起震車を体験し、揺れを知っておくことで、実際の行動が変わります。



防災無線
区内104か所に設置した屋外スピーカーから、災害時の情報や避難勧告などを発信します。屋外スピーカーは学校や児童遊園などに設置しています。発信した内容は、ケーブルテレビなどでも確認できます。



備蓄倉庫
区内にある備蓄倉庫には、食料や飲料水、生活用品、医薬品、組み立て式トイレなどを保管し、災害時に備えています。種類ごとに整理整頓しており、すぐに取り出せます。



防災アイテム
災害時の広域避難場所・一時集合場所などを示した防災地図(全域版・水害版など)や、避難場所の確認・安否確認を電子メールで確認できる荒川区防災アプリがあります。

荒川区防災アプリのダウンロードの方法
AppStore、GooglePlayから

※「荒川区防災アプリ」で検索するか、右のQRコードを読み取ってご利用ください
※ダウンロードは無料です(通信料は本人負担)

役立つアイテムは日頃からチェック!
草刈香穂さん





学校訪問

部活動

第九中学校

東尾久2-23-5

生徒が部活動を紹介し サッカー部



▲3年生最後の夏の都大会に出場を果たしました

私たちが九中サッカー部は、現在1年生5人、2年生8人の計13人で活動しています。人数は少ないですが仲が良く、チームワークが良いです。活動日は火・金曜が練習で、休日や祝日は、合同練習や試合に取り組んでいます。最初は、仲間同士の声掛けが少なくコミュニケーションが取れていませんでした。練習から意識することで、今ではチームを盛り上げる声だけでなく、チームの動きを修正するような声かけができるようになってきました。試合では、一点目や二点目を相手に取られてしまうと、チームの調子が下がり、そのまま終わってしまうことがほとんどでしたが、全員があき



▲シード権大会では、1、2年生メンバーで優勝することができました

執筆者 部長 2年 鶴島向陽

学校自慢

ひぐらし小学校

西日暮里2-32-5

学校の自慢を児童が 紹介します



▶みんなが楽しみにしている「ひぐらし祭」

秋には、学芸会と音楽会が一年ずつ交互に行われます。今年度は音楽会でした。一人一人が練習に真剣に取り組み、本番では一所懸命に自分の役割を果たし、みんなの心を一つにし、体育館いっぱいにするなハーモニーを響かせました。これらの行事を通して、助け合ったり誰かに優しくしてもらったりして、受け取った

思いやりを「思いやりの音」として全校で共有しています。これは、ひぐらし小学校が取り組む青少年赤十字(JRC)の活動の一つです。他にも、あいさつボランティアやおそうじ・し隊、ユニセフへの募金など、JRCの目標に合ったさまざまな活動を行っています。



▲毎月20日に行われる「おそうじ・し隊」

あらかわ今昔ものがたり
あらかわの歴史と伝説
その115 あらかわの春を楽しむ
～桜の名所・日暮里～

今年も桜前線が近づいてきたね。みんな、どこにお花見に行くのかな？
江戸時代、とても人気のお花見スポットが、あらかわにもあったんだよ。それは日暮しの里と呼ばれた日暮里の寺町なんだ(今の西日暮里三丁目)。中でも、花見寺と呼ばれた、妙隆寺・修性院・青雲寺のお庭は、一つの大きな公園のようだったんだって。日暮しの里では、早咲きの桜から遅咲きの桜まで、いろいろな桜を見ることができたんだって。「江戸名所花暦」や「東都歳事記」という江戸時代の本によるとね、「彼岸桜」から始まり「枝垂れ桜」「単弁桜」「八重桜」など、長い期間楽しめるんだってさ。仁王門で有名な養福寺、日蓮聖人作の大黒さんをお祀りする経王寺の「枝垂れ桜」は太木で、七面堂がある延命院の「単弁桜」も中々の枝振りだったそうだよ。

先生とお花見に行こう！
当時の子どもたちは、どんなお花見を楽しんでいたんだろう？
これはね、松尾芭蕉さんの弟子・嵐雪さんが詠んだお花見の句だよ。昔、お習字や、歌の先生の声がかけて行われたお花見があったんだ。先生、子ども、お母さんたち、100人を超えるグループも見られたそうだよ。お揃いの手拭い・日傘を身につけて着飾るのが流行ったんだって。

土器投げを楽しむ
ここで評判だったのが土器投げ。境内で売られている素焼きの杯を、花びらが舞い散る空に向かって投げ、土器が風に舞う様を見て楽しむ遊びなんだ。
花の散るたびに土器されるなりと川柳にも詠まれているよ。



歌川広重「日暮里諏訪の台」(名所江戸百景)

荒川公園の永久水利施設で防災訓練

2月7日、諏訪台中学校の2年生が荒川消防署の勤労留学の一環として、永久水利施設で防災訓練を行いました。永久水利施設は、現在区内に7か所あります。荒川公園の永久水利施設は地下水を利用しています。荒川消防署の方に教わりながら、「D級ポンプ操作訓練」と「放水訓練」を行いました。



▲ポンプの先を回すと水が勢いよく出ました。水圧がかかり体が後方に持っていかれそうになりました

“社会を明るくする運動” 作文コンテスト

三瑞小・山本そよさんが優秀賞を受賞

1月5日、第三瑞光小学校6年の山本そよさんが第67回“社会を明るくする運動”作文コンテストにおいて優秀賞である東京都推進委員会委員長(東京都知事)賞を受賞し、1月10日、西川区長に報告しました。また、50作品以上応募した学校に贈られる奨励賞を、第三瑞光小学校が受賞しました。



西川区長に優秀賞の報告をする山本さん